



第10回

3/15号

丸山工務店 「東京都世田谷区 矢嶋・高橋邸」
 風が通り抜ける
 三世帯で暮らす家



矢嶋・高橋邸には広い庭があり、自然と触れ合いながら暮らしている。樹齢60年以上という桜の木を残して家づくりが行われた。

文・写真 鈴木和宏



世田谷区の閑静な住宅街の一角に建つ矢嶋・高橋邸は、上下分離型の二世帯住宅だ。現在は、矢嶋夫人とお嬢さん(次女)が主に1階で暮らしている。主にと書いたのは、テキスタイルデザイナーのお嬢さん(次女)の仕事場兼個室が、階段を上がつてすぐの2階にあるからだ。一方、2階奥にはもう一人のお嬢さん(長女)とそこご主人(高橋さん)の生活空間が設けられている。現在、高橋夫妻は海外在住のため、一時帰国の際の住居としてのみ利用している。

た。「25年も経つと、かなり古めかしくなってきた……」と奥さまが述べ懐する。息子さん(長男)が隣地に新しい家を建てたことも刺激となり、建て替えの決断を下したという。主として家づくりを進めたのは、今は亡き矢嶋さんのご主人だった。依頼先を検討する中、新聞で匠の会の存在を知る。「これまでの家と違い、木の家がいいと思ったようです(夫人)」。



矢嶋邸のLDKはワンルーム感覚の明るく開放的な空間。窓の外には大きなウッドデッキがあり、庭との一体感が味わえる。構造材や仕上げ材はもちろん、建具にも無垢材を使用。





右上／2階に設けられた次女の仕事場兼個室。赤い壁が個性的。ロフトをベッドルームにしている。写真左4点／2階に設けられた高橋邸の居室。吹き抜けを生かしたダイナミックな空間がおおきな魅力。仕上げや細部にも夫妻のこだわりが反映されているという。バルコニーから螺旋階段で庭に降りられるようになっている。

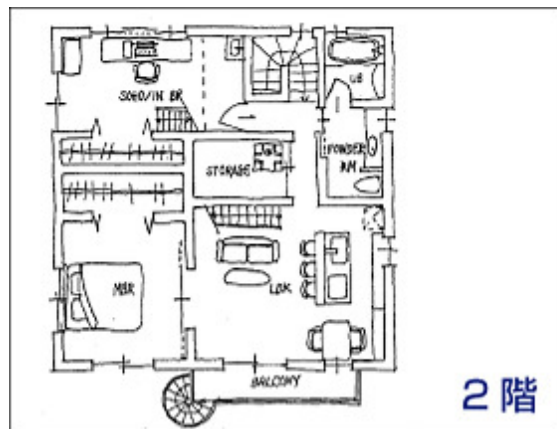
2つ以上の窓で 風通しを確保

ご主人は器用な人で、見よう見まねで間取りを描いて要望を伝えたという。「ちょっと風の通りが悪そうでしたので、要望を生かしつつ風通しのよい間取りを提案しました」と、設計を担当した丸山工務店の井口修子さん。それは、1・2階とも建物中央に納戸を設け、それを囲むように必要数の居室を配置したもの。こうすることで、居室に2つ以上の窓を設けることができ、人にも住まいにも欠かせない通風を確保した。同時に、ぐるりと回れる動線を確保し、世帯間の行き来も可能にしている。また、ご主人の案では1階にあった次女の仕事場兼個室も、2階に独立性をもたせて配置。「これはいい」とご主人も一目で納得されたという。

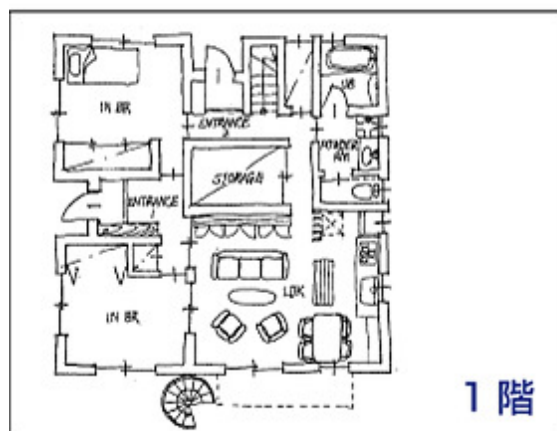
ご主人が惹かれた木材についても触れておこう。同社では紀州山長の材を選ぶことができる。和歌山にある広大な山林は手入れが行き届き、独自の乾燥技術と相まって理想的な良材を生む。ご主人は迷わずこの材を選んだそう。柱には檜、梁には松を用い、木の香り漂う住まいを実現させている。

「リビングに居ながらにして庭の自然を楽しむのがいいですね。見栄えのよい家になったので、人が来ても「お上がりください」と気軽に言えるようになりまし。隣に住む孫たちと一緒に、ウッドデッキでバーベキューをするのも楽しいですね」と目を細める夫人。

「こんな素敵な家を建ててくれた亡き父に感謝しています。ずっと大切に住んでいきたいと思っています」と、お嬢さん（次女）が最後に、この家への思いを語ってくれた。



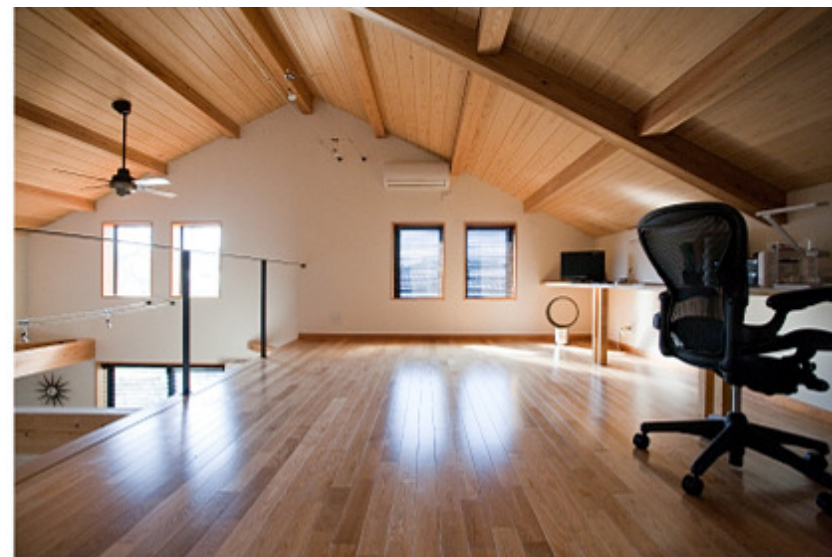
2階



1階



高橋邸の外光を取り入れた明るい洗面・浴室。写真後方にはドアを設けないオープンスタイルのトイレがある。



上2点／ともに高橋邸の居室。長いカウンターデスクが設けられた大きなロフトや、リビングに隣接した開放的なベッドルームからも夫妻のこだわりが感じられる。



建築データ

- 所在地：東京都
- 家族構成：親世帯2人・子世帯2人
- 敷地面積：236.08㎡(71.41坪)
- 延床面積：168.34㎡(50.92坪)
- 1階：84.17㎡(25.46坪) 2階：84.17㎡(25.46坪)
- 竣工：平成21年4月(工期：平成20年12～平成21年4月)
- 設計・施工：株式会社 丸山工務店
- 構造：木造2階建(在来工法)
- 主な外部仕上げ：屋根／コロニアル葺き 外壁／サイディング張
- 主な内部仕上げ：床／1階 東集・カラマツ無垢フローリング
- 2階 テーオー小笠原・ナラ無垢フローリング
- 壁／タナククリーム 一部 AEP